



第32回体育祭を実施しました

～生徒会スローガン：心を燃やせ、ともに熱くなろうぜ～

校長 村山 孝



5月20日(土)に第32回体育祭を実施いたしました。新型コロナウイルス感染症が5類に移行した後、初めての学校行事となりました。当日は、多くの保護者の皆様に御来場いただき、感謝申し上げます。ありがとうございました。

今年度の体育祭の準備は昨年度から進め、1年生は入学後間もなく準備が始まりました。3年生は4月下旬の修学旅行後に体育祭当日に向けて、練習や準備を行いました。準備期間が短い状況でしたが、生徒の皆さんは大変頑張ったと思っています。

体育祭当日を振り返ってみます・・・。

弱い雨が降る中、開会式や走競技を行いました。走競技では、滑りやすいグラウンドでしたが、生徒の皆さんがゴールを目指して、一生懸命に走る姿を見ることができました。1年生の「台風の目」は学年の仲間と協力し合い、棒をつなぐ姿があり、1年生の皆さん仲間意識が育ったと感じました。2年生の「ボールキャリー」は学年の仲間とリズムを合わせてボールを運んでいました。ボールが落ちないように、友だち(組んだ相手)の動きに気にしながら、友だちを大切に作る姿がありました。3年生の「田無版南中ソーラン」は、気合を入れ、学年が一つとなり演技していました。様々な動きを集団で演技し、さすが3年生!!でした。選抜リレーは、スピード感があり、最後まであきらめない生徒たちの姿を見て感動しました。今回の体育祭全体をとおして、生徒の皆さんは、日頃の練習の成果を発揮し、真剣に、そして楽しんで競技や演技を行っていました。心を燃やし、田無が一つになり、熱くなった体育祭となりました。

さて、学校行事は学校教育の中で重要な取り組みです。しかし、生徒の皆さんにとっては、イレギュラーな授業や活動が続き、不安になることもあります。御家庭でも様々な御対応等行っていただいたのではないかと思います。

「行事ごとに生徒たちは成長する」という言葉があります。「生徒たちは行事という困難な取り組みを乗り越え、達成感を味わい成長していく・・・」「毎年行事を繰り返すことによって、できることが増えていく」という意味です。「行事は苦手・・・」と思っている生徒もいますが、私たち教員は、そのような生徒には成功するように様々な方法で指導や支援を計画的に行います。苦手と思っていた行事が成功すると生徒や教員の喜びはひとしおです。昨年度の体育祭を思い浮かべますと、2年生、3年生の皆さんは大変成長したと感じています。このことは、校長として大きな喜びです。今後も様々な工夫し、生徒の皆さん全員が達成感を味わうことができる「魅力ある体育祭」を進めていきたいと思っています。

希望の進路実現につながる「挨拶」を大切にしていきます

数年前、ある企業の社長に「就労する際に大切な事はどのようなことですか」と伺いました。その社長は「就労する際に一番大切な事は『挨拶』です。しっかりと挨拶ができると会社で活躍できます」「会社で行う仕事は会社が教えます。挨拶は在学中に身に付けてほしいです」と話されていました。

本校では、生徒の皆さんに「田無の約束」として「挨拶」を大切な取組みとして、学校生活全体をとおして行っています。毎朝、登校する生徒には、校長（私）や今野副校長、そして多くの教員が校舎入り口付近で、生徒の皆さんと挨拶をしています。2年生、3年生の多くは、校長、副校長、教員の前で立ち止まり、姿勢をよくして挨拶を行っています。1年生の皆さんも少しずつ慣れ、挨拶ができる生徒が増えてきています。

「挨拶は人と人をつなぐ大切な行為」です。挨拶を行い、挨拶が返ってきますと心が暖かになり、相手とつながった思いになります。そして、挨拶をしっかりとできるようになることが、希望の進路実現につながります。今後も本校では挨拶を大切に、明るく挨拶ができる生徒を育成したいと考えています。

<進路指導部より>

◆7月実施「保護者向け進路学習会」及び「進路講演会」について

以下のとおり、「保護者向け進路学習会」及び「進路講演会」を実施します。

【保護者向け進路学習会】

〈日時〉

7月4日(火) 午前10時00分から正午まで

〈会場〉

本校体育館にて

〈内容〉

『卒業後の生活について～地域で生活していく上で大切なこと～（仮題）』

- ・卒業後の過ごし方（平日、帰宅後の過ごし方）
- ・年金申請を含めた生活の困りごとの解決方法
- ・地域の各機関とのつながり

〈講師〉

国沢 真弓 氏

（一般財団法人 発達障がいファミリーサポート Mable 代表理事）

【進路講演会】

〈日時〉

7月26日(水) 午前10時00分から午前11時30分まで

〈会場〉

本校体育館にて

〈内容〉

『企業の考える合理的配慮について(仮題)』

〈講師〉

宮崎 家光 氏

(株式会社テイクアンドギヴ・ニーズ)

それぞれの詳細は、追って御連絡いたします。どちらも講師にお話しいただく貴重な機会です。ぜひ御参加ください。

＜支援部より＞ 「本校で実施しているアセスメントについて」

＜アセスメントに係る外部専門員の来校＞

今年度も、外部専門員の先生が月1回程度来校予定です。

- ・臨床心理士:笠原真佐美先生、吉見恵美子先生
- ・臨床発達心理士:加藤健生先生
- ・言語聴覚士(ST):加藤ふみ先生、磯部裕子先生
- ・作業療法士(OT):村山早百合先生、増子拓真先生
- ・行動観察:齊藤宇開先生、渡邊倫先生、黒田かおり先生

アセスメントや観察をしていただき、指導に関する助言をいただいています。

本校では日常の学校生活における生徒観察と併せてアセスメントを実施することにより、よりの確に生徒一人一人の実態や支援ニーズを明らかにし、指導・支援に役立てていきます。

アセスメントの名称	対象	結果にあられること	備考
日本版 Vineland-II 適応行動尺度	1年生全員 (転入生)	実生活の中でどれだけうまくやれているのか、本人ができる(得意なこと・支援が必要なことなど。	
太田ステージ評価	1年生全員 (転入生)	認知の発達(主に言語理解の発達)段階。	
TTAP(自閉症スペクトラムの移行アセスメントプロフィール)	個別抽出	地域社会の中でよりよく適応するために必要なスキルをどの程度習得しているかなど。	
WISC-IV知能検査	個別抽出	知能(情報を処理する力)の発達(全体的な発達水準と、本人の中での得意・不得意のばらつき)。	適用年齢 5歳0ヵ月 ～16歳11ヵ月
WAIS-III知能検査			適用年齢 16歳～89歳
新版 K 式発達検査 2001	個別抽出	知的な能力だけでなく、身体運動能力や社会性を含めた発達水準(全般的な発達の進みや遅れ、バランスの良さ悪さなど)。	適用年齢 新生児～成人
日本版感覚プロファイル (SP)	個別抽出	感覚面での過敏さ鈍さの特性と日常生活における行動への影響	
就労準備チェック表 田無版 CSC	全員	日常生活や、社会生活を送る上での現段階の強みや課題。	

* 御相談や問い合わせがありましたら、支援部アセスメント担当(Co 原、臼井、内藤)までお願いします。